
春と言う名の季節

彌劔

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

春と言つ名の季節

【Nコード】

N8051B

【作者名】

彌劔

【あらすじ】

高校3年の伊吹道治いぶきみちはると愛川夏あいかわなつの二人の最後の話です。

春それは出逢いと別れが訪れる季節

新しい出逢いが来たら俺は嬉しい。俺の名は伊吹道治いぶきみちはると言う。

部活は文化部の文学部

賞は3つほどある。ちなみに成績は普通でイケメンでもない。

今日は卒業だ。卒業といっても何も有るわけでもない。先生から卒業論文を書かされ代表として言う。教室で皆はアルバムにコメントを書く。隣でみちちゃん寂しいと訪ねて来る。その隣にいるのは幼馴染みの愛川夏あいかわなつだ。俺は別にと言う。

がこいつとは恋人となってしまった関係だ。

そして、夏今日は一緒に居ようと言う。

夏はわかったよ。と返した。嬉しかった。けど、別れてしまう。

春それは新しい出逢いそして切ない別れが来る。

俺はこの日だけ家の屋根に座り星を眺めていた。

今この瞬間を見逃さずに夏と一緒に居たい。

だから明日になる前に

ずーとこの空と星を眺め祈ろう。

だから君と一緒に星を見る。

今この場所にいるだけ

君と一緒に

どんな時であつても

夏と一緒にいた3年間は楽しかった。

夏は俺の隣で涙を流して、寝ていた。やっぱり寂しいだよな夏はと俺は思った。

春は優しい風が吹く。それは再会出来ると言う春風だ。

だから俺は夏にこう言う、またなとそう別れじゃなくて、再会する日時があつたら久しぶりと言う挨拶を交す日を期待しているから

そして夏もまたねと言う、また一緒に出会う機会がある事を

だから俺と夏は深い絆で結ばれているから。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になろうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連「横書き」という考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8051b/>

春と言う名の季節

2011年1月27日10時35分発行